

長岡市男女共同参画に関する意識調査 速報

令和3年7月

I 調査の概要

1. 調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識を把握し、「第3次ながおか男女共同参画基本計画」の策定にあたっての基礎資料とする。

2. 調査の設計と回収状況

(1) 調査対象

住民基本台帳により無作為に抽出した市内在住の満18歳以上の男女3,000人（令和3年4月1日現在）

(2) 調査方法

調査票をメール便で配布し、郵便で回収

(3) 調査期間

令和3年4月16日（金）～5月7日（金）

(4) 調査項目

男女共同参画に関する用語の認知度

家庭生活・結婚に対する考え方 7月速報 P10～

男女の地位の平等 7月速報 P17～

政策・方針決定過程への女性の参画 7月速報 P26～

地域活動

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） 7月速報（現実のみ） P28～

女性の生き方・働き方

DV（配偶者等からの暴力） 7月速報（DV相談窓口の認知のみ） P30～

妊娠、出産などへの女性の意思の尊重

メディアにおける性・暴力表現

新型コロナウイルス感染症の影響

男女共同参画社会に関する市への要望

対象者の属性（性別・年齢・婚姻状況・職業）

(5) 回収結果

有効回収数 1,150票

有効回収率 38.3%

(6) 調査実施主体と実施機関

実施主体：長岡市市民協働推進部人権・男女共同参画課

実施機関：長岡大学地域連携研究センター

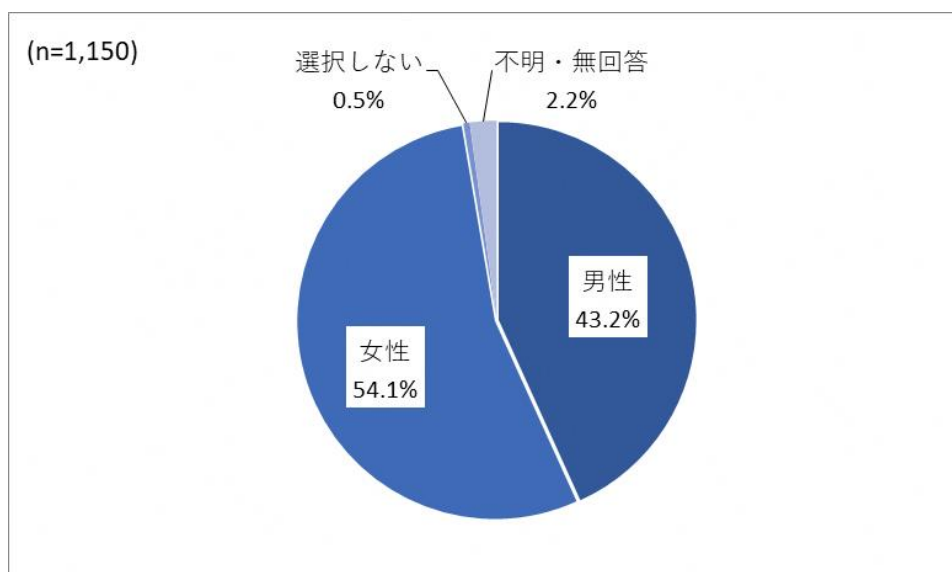
報告書執筆 准教授 武本 隆行

3. 回答者の属性

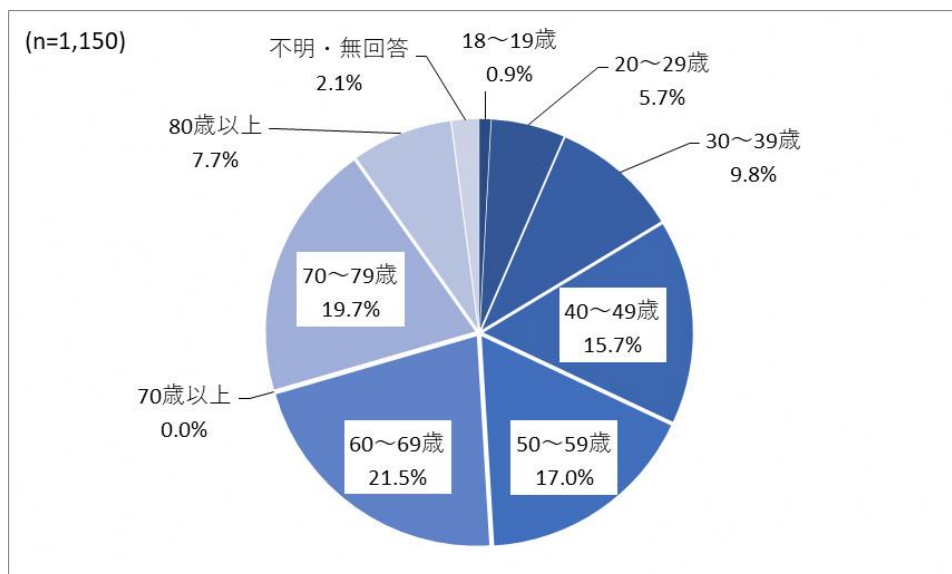
(1) 基本属性

回答者 1,150 人の性別、年齢、婚姻状況、職業は図表 I-1～図表 I-4 のとおりとなっている。

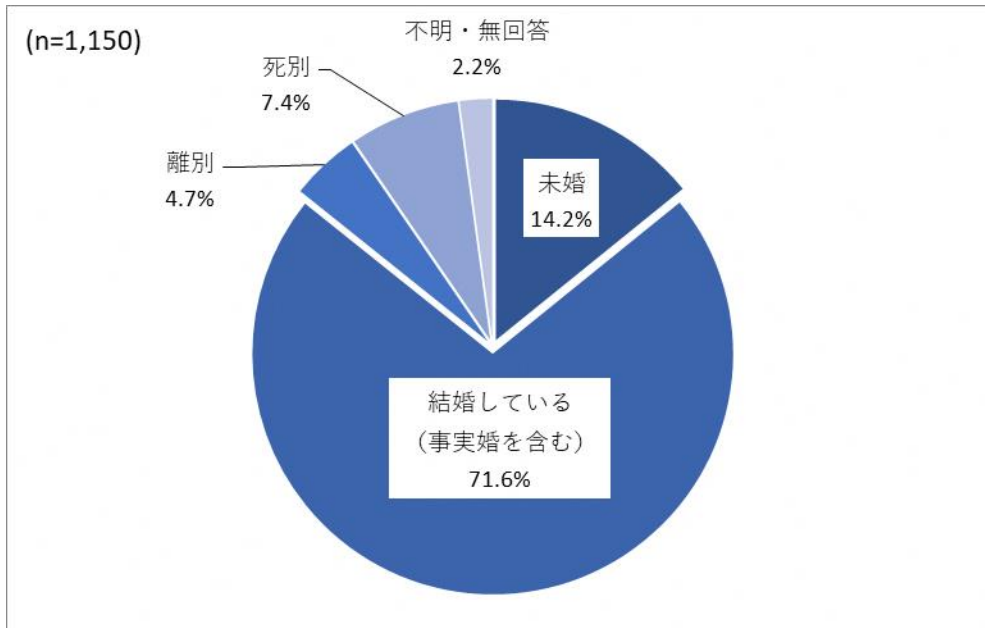
図表 I-1 性別



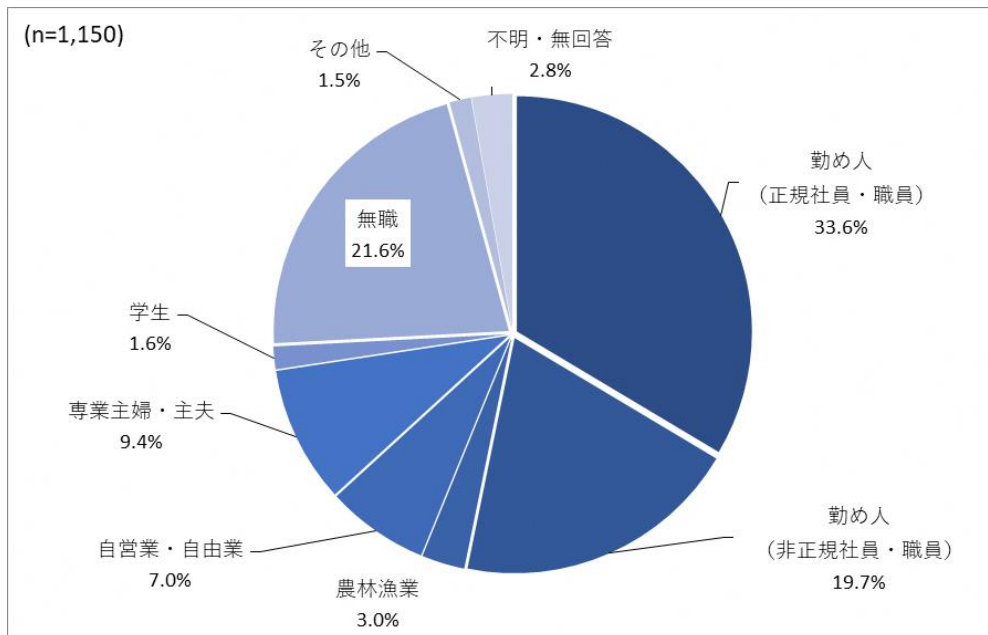
図表 I-2 年齢



図表 I-3 婚姻状況



図表 I-4 職業



(2) 性別による回答者の属性

回答者の性別による年齢、婚姻状況、職業は図表 I-5 のとおりとなっている。なお、性別不明の回答があるため各合計は回答者総数 (n=1,150) と一致しない。

図表 I-5 性別と回答者の年齢、婚姻状況、職業

		全体		男性		女性		選択しない	
		実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
年齢	18～19歳	10	0.9%	1	0.2%	9	1.4%	0	0.0%
	20～29歳	65	5.8%	34	6.8%	30	4.8%	1	16.7%
	30～39歳	113	10.0%	39	7.8%	73	11.7%	1	16.7%
	40～49歳	180	16.0%	85	17.1%	93	15.0%	2	33.3%
	50～59歳	196	17.4%	78	15.7%	116	18.6%	2	33.3%
	60～69歳	246	21.9%	105	21.1%	141	22.7%	0	0.0%
	70歳以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	70～79歳	226	20.1%	112	22.5%	114	18.3%	0	0.0%
	80歳以上	89	7.9%	43	8.7%	46	7.4%	0	0.0%
	不明・無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	1125	100.0%	497	100.0%	622	100.0%	6	100.0%
婚姻状況	未婚	163	14.5%	84	16.9%	78	12.5%	1	16.7%
	結婚している (事実婚を含む)	822	73.1%	374	75.3%	446	71.7%	2	33.3%
	離別	54	4.8%	18	3.6%	35	5.6%	1	16.7%
	死別	85	7.6%	21	4.2%	63	10.1%	1	16.7%
	不明・無回答	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%
		合計	1125	100.0%	497	100.0%	622	100.0%	6
職業	勤め人 (正規社員・職員)	386	34.3%	218	43.9%	166	26.7%	2	33.3%
	勤め人 (非正規社員・職員)	226	20.1%	54	10.9%	169	27.2%	3	50.0%
	農林漁業	34	3.0%	24	4.8%	10	1.6%	0	0.0%
	自営業・自由業	81	7.2%	52	10.5%	29	4.7%	0	0.0%
	専業主婦・主夫	108	9.6%	6	1.2%	101	16.2%	1	16.7%
	学生	18	1.6%	5	1.0%	13	2.1%	0	0.0%
	無職	248	22.0%	131	26.4%	117	18.8%	0	0.0%
	その他	16	1.4%	4	0.8%	12	1.9%	0	0.0%
	不明・無回答	8	0.7%	3	0.6%	5	0.8%	0	0.0%
	合計	1125	100.0%	497	100.0%	622	100.0%	6	100.0%

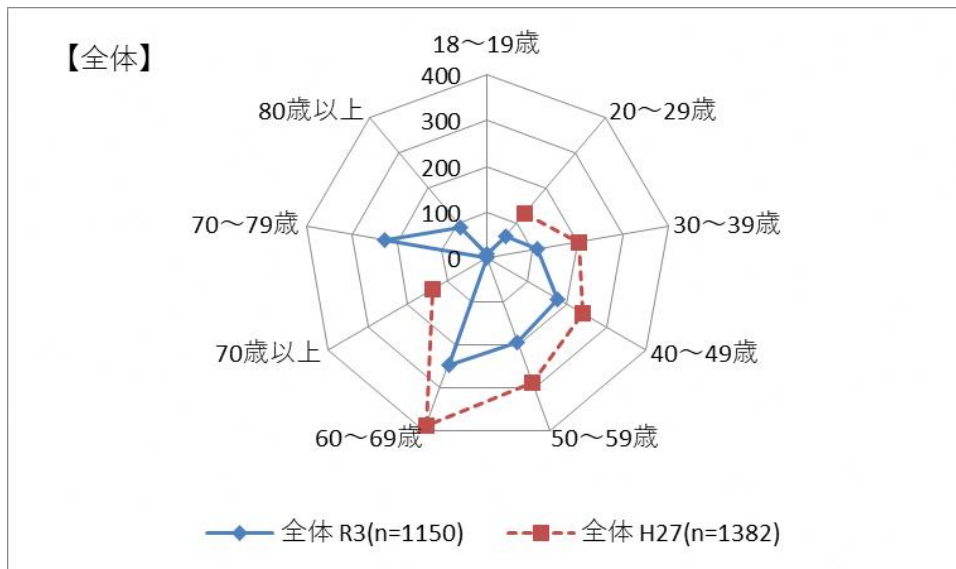
(3) 前回調査の回答者との比較

今回調査の回答者の年齢構成と前回調査の回答者の年齢構成（平成 27 年）は、図表 I-6～図表 I-9 のとおりとなっている。なお、今回調査では「18～19 歳」「70～79 歳」「80 歳以上」の選択肢を新規追加し、「70 歳以上」を削除した。前回調査との比較時では、「70 歳以上」も併記する。

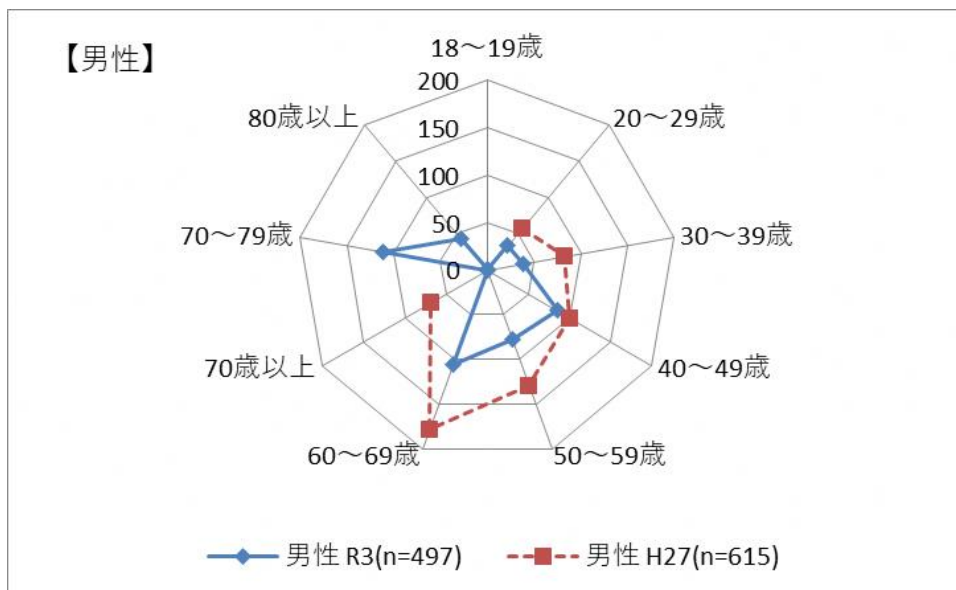
今回調査にて新規記載された「18～19 歳」「80 歳以上」については、過去調査票の質問区分とは異なるため、比較データはない。

今回調査より性別において「選択しない」の選択肢を追加した。

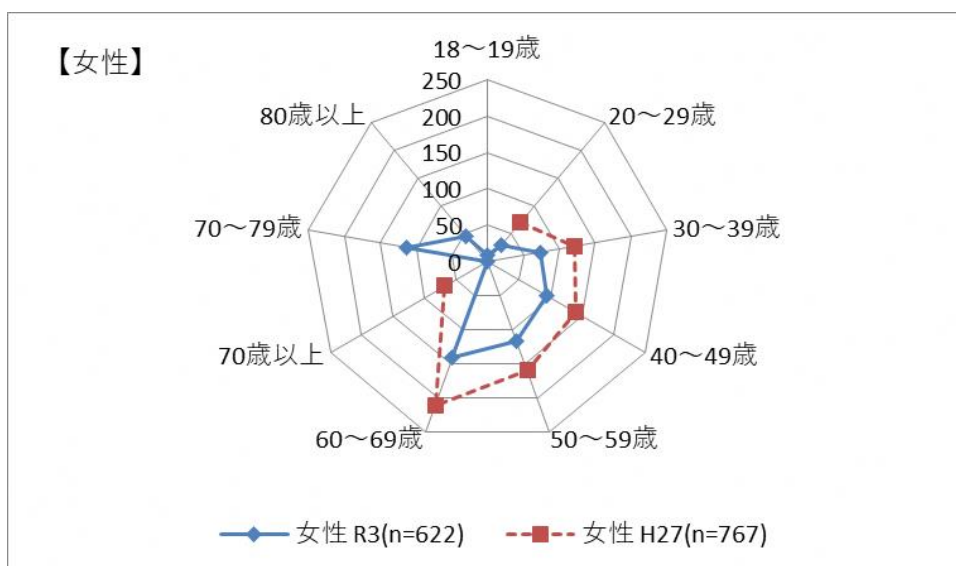
図表 I-6 年齢構成の比較（全体）



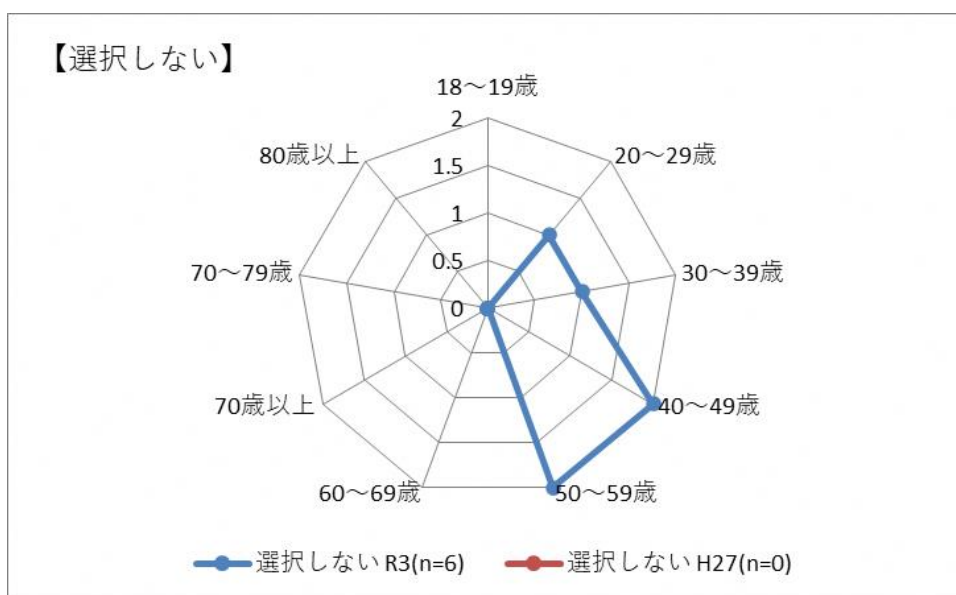
図表 I-7 18 歳以上人口との比較（男性）



図表 I-8 18歳以上人口との比較（女性）



図表 I-9 18歳以上人口との比較（選択しない）



4 報告書の見方

(1) 集計・書式等

- ・各質問の回答者数（該当質問では該当数）を n= で示している。
- ・集計結果は、回答者数に対する各選択肢の比率（%値）の小数点以下第2位を四捨五入しているため、単数回答であっても合計は 100.0%にならないことがある。
- ・性別、年齢別など層別のクロス集計では、性別、年齢など不明のケースを除外して集計しているため、各項目を合計しても回答者数と一致しない。
- ・無回答、判読の困難な回答、無効回答（単数回答のところを複数回答しているなど）を「不明・無回答」として集計している。
- ・調査票の質問文や選択肢は、省略したかたちで示している箇所がある。
- ・年齢区分を表す「20～29歳」「30～39歳」などは、本文中では「20代」「30代」と表現している。

(2) 既存調査との比較

〈経年比較〉

長岡市の経年変化を把握するために、平成22年9月・同27年10月実施「長岡市男女共同参画に関する意識調査」と比較した。

図表 I-10 今回調査・平成27年調査・平成22年調査・令和元年全国調査の概要

		今回調査	平成27年調査	平成22年調査	令和元年全国調査	
実施主体		長岡市			内閣府	
関係部署		市民部市民活動推進課	市民部市民活動推進課	市民協働部市民活動推進課	男女共同参画局	
調査の名称		「長岡市男女共同参画に関する意識調査」	「長岡市男女共同参画に関する意識調査」	「長岡市男女共同参画に関する意識調査」	「男女共同参画に関する世論調査」	
調査期間		令和3年4月16日～ 令和3年5月7日	平成27年10月20日～ 平成27年11月13日	平成22年9月14日～ 平成22年9月30日	令和元年9月05日～ 令和元年9月22日	
調査対象者		市内在住の18歳以上の男女 3,000人	市内在住の20歳以上の男女 3,000人	市内在住の20歳以上の男女 3,000人	全国18歳以上の者 5,000人	
標本抽出方法		住民基本台帳による無作為抽出法	住民基本台帳による無作為抽出法	住民基本台帳による無作為抽出法	層化2段無作為抽出法	
調査方法		メール便で配布・郵便で回収	メール便で配布・郵便で回収	メール便で配布・郵便で回収	調査員による個別面接聴取	
有効回収数（率）		1,150票（38.3%）	1,399票（46.6%）	1,669票（55.6%）	2,645票（52.9%）	
回答者の属性（%）	性別	男性	43.2	44.0	44.1	50.3
		女性	54.1	54.8	55.2	55.4
		選択しない	0.5	-	-	-
		不明・無回答	2.2	1.2	0.7	0.0
	年齢	18～19歳	0.9	-	-	51.9
		20～29歳	5.7	9.0	8.9	34.2
		30～39歳	9.8	14.5	16.8	47.3
		40～49歳	15.7	17.2	17.1	54.3
		50～59歳	17.0	20.6	22.2	54.2
		60～69歳	21.5	27.7	25.5	61.9
		70歳以上	0.0	9.8	9	55.9
		70～79歳	19.7	-	-	-
80歳以上	7.7	-	-	-		
不明・無回答	2.1	1.2	0.5	0.0		

本文中で略記するときは、それぞれ「平成22年調査」、「平成27年調査」、「今回調査」という。

〈全国調査との比較〉

長岡市の特徴を明らかにするために、内閣府が実施している「男女共同参画に関する世論調査」(<https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-danjo/index.html>)を参考にし、適宜、質問を取り入れた。比較にあたっては、令和元年9月に実施した調査をもとにしている。本文中で略記するときは、「令和元年全国調査」という。

今回調査、平成27年調査、平成22年調査、ならびに内閣府による令和元年全国調査の概要は、図表I-10のとおりである。

II 調査結果

1 家庭生活・結婚に対する考え方（問2）

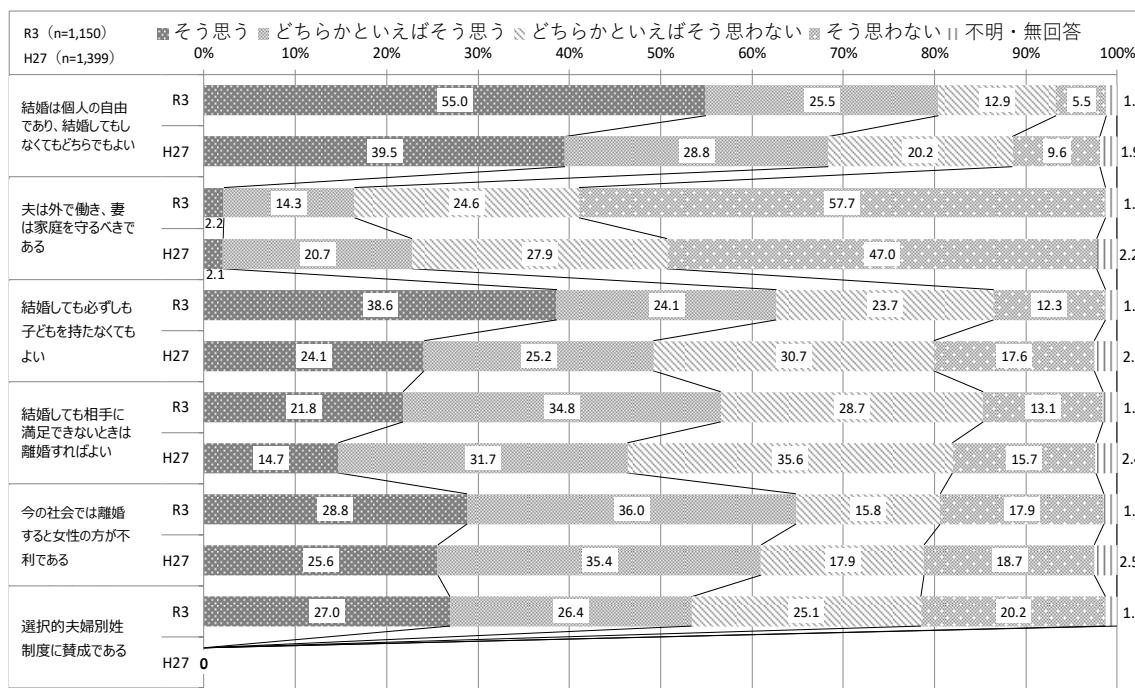
家庭生活・結婚に関する以下の5つの考え方について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」のうち、それぞれ自分の考えに最も近いものをたずねた。

- (1) 結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい
- (2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである
- (3) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい
- (4) 結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよい
- (5) 今の社会では、離婚すると女性の方が不利である
- (6) 選択的夫婦別姓制度に賛成である（今回調査から追加した選択肢）

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合の合計を「そう思う（小計）」とし、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計を「そう思わない（小計）」として比較する。

「そう思う（小計）」は、「結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい」が80.5%、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」が16.5%、「結婚しても必ずしも子どもを持たなくてもよい」が62.7%、「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」が56.6%、「今の社会では離婚すると女性の方が不利である」が64.8%、「選択的夫婦別姓制度に賛成である」が53.4%となっている。このうち、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は、「そう思わない（小計）」が「そう思う（小計）」を上回っており、その他はすべて「そう思う（小計）」が多かった。経年比較では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」を除くすべての選択肢が前回調査より「そう思う（小計）」が増加している。

図表 1-1 家庭生活・結婚に対する考え方

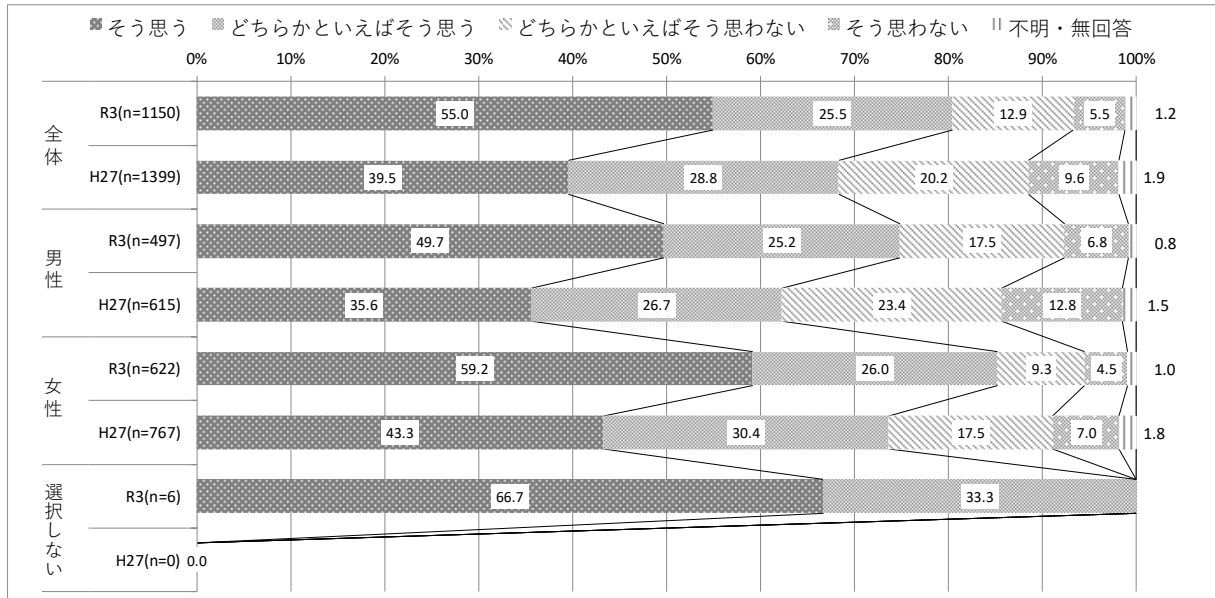


(1) 結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい

「そう思う (小計)」割合は、全体で 80.5% となっている。性別では、女性が 85.2% で男性の 74.9% より 10.3pt 高い。また、選択しないと回答した方の「そう思う (小計)」の割合は 100% となった。経年比較では、全体、男性及び女性ともに増加している。

図表 1-2 家庭生活・結婚に対する考え方

(1) 結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい



図表 1-3 家庭生活・結婚に対する考え方

(1) 結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい—性別

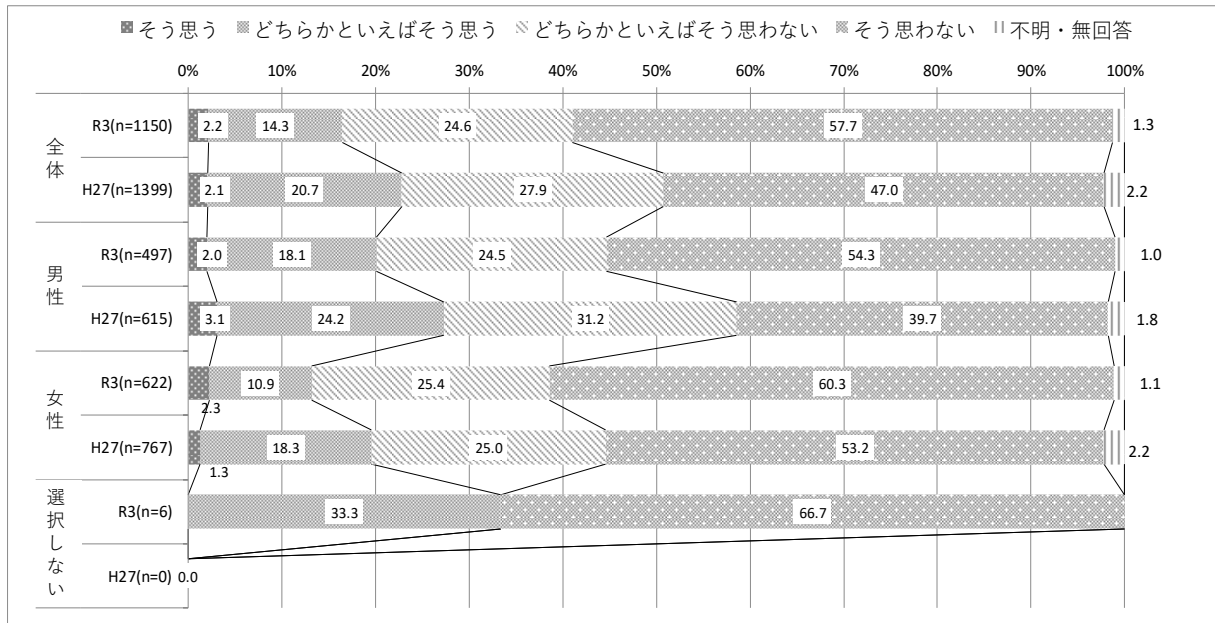
			問2 (1) 結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい					合計
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	不明・無回答	
性別	男性	今回調査	49.7%	25.2%	17.5%	6.8%	0.8%	100.0%
		H27年調査	35.6%	26.7%	23.4%	12.8%	1.5%	100.0%
	女性	今回調査	59.2%	26.0%	9.3%	4.5%	1.0%	100.0%
		H27年調査	43.3%	30.4%	17.5%	7.0%	1.8%	100.0%
選択しない	今回調査	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	

(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

全体では、「そう思う（小計）」が16.5%に対して、「そう思わない（小計）」が82.3%と多い。経年比較では、「そう思わない（小計）」が平成27年調査の74.9%より7.4pt増加していることがわかる。

女性と男性を比較すると、性別役割分業に肯定的な「そう思う（小計）」割合は、女性が13.2%で、男性の20.1より6.9pt低い。選択しないと回答した方は「どちらかといえばそう思う」33.3%、「そう思わない」66.7%となった。経年比較でみると、男性は7.2pt、女性は6.4pt減少している。

図表 1-4 家庭生活・結婚に対する考え方
(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



図表 1-5 家庭生活・結婚に対する考え方
(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである—性別

			問2 (2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである					合計
			そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	不明・無回答	
性別	男性	今回調査	2.0%	18.1%	24.5%	54.3%	1.0%	100.0%
		H27年調査	3.1%	24.2%	31.2%	39.7%	1.8%	100.0%
	女性	今回調査	2.3%	10.9%	25.4%	60.3%	1.1%	100.0%
		H27年調査	1.3%	18.3%	25.0%	53.2%	2.2%	100.0%
	選択しない	今回調査	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%
		H27年調査	-	-	-	-	-	-

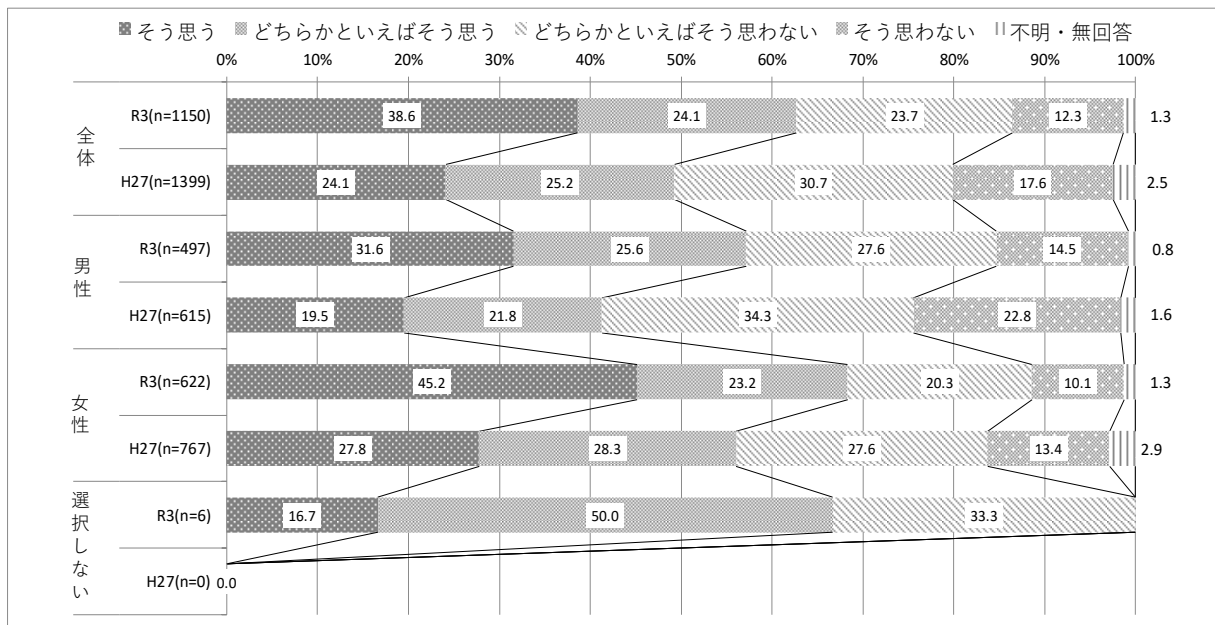
(3) 結婚しても必ずしも子どもを持たなくてもよい

全体では、「そう思う（小計）」が 62.7%に対して、「そう思わない（小計）」が 36.0%となった。経年比較では、「そう思う（小計）」が 13.4pt 増加し、「そう思わない（小計）」が 12.3pt 減少している。

「そう思う（小計）」割合は、女性が 68.4%で男性の 57.2%より 11.2pt 上回っている。選択しないと回答した方は、「そう思う（小計）」が 66.7%で、「そう思わない（小計）」33.3%を大きく上回った。経年比較でみると、「そう思う（小計）」が男性（15.9pt）、女性（12.3pt）ともに増加している。

図表 1-6 家庭生活・結婚に対する考え方

(3) 結婚しても必ずしも子どもを持たなくてもよい



図表 1-7 家庭生活・結婚に対する考え方

(3) 結婚しても必ずしも子どもを持たなくてもよい—性別

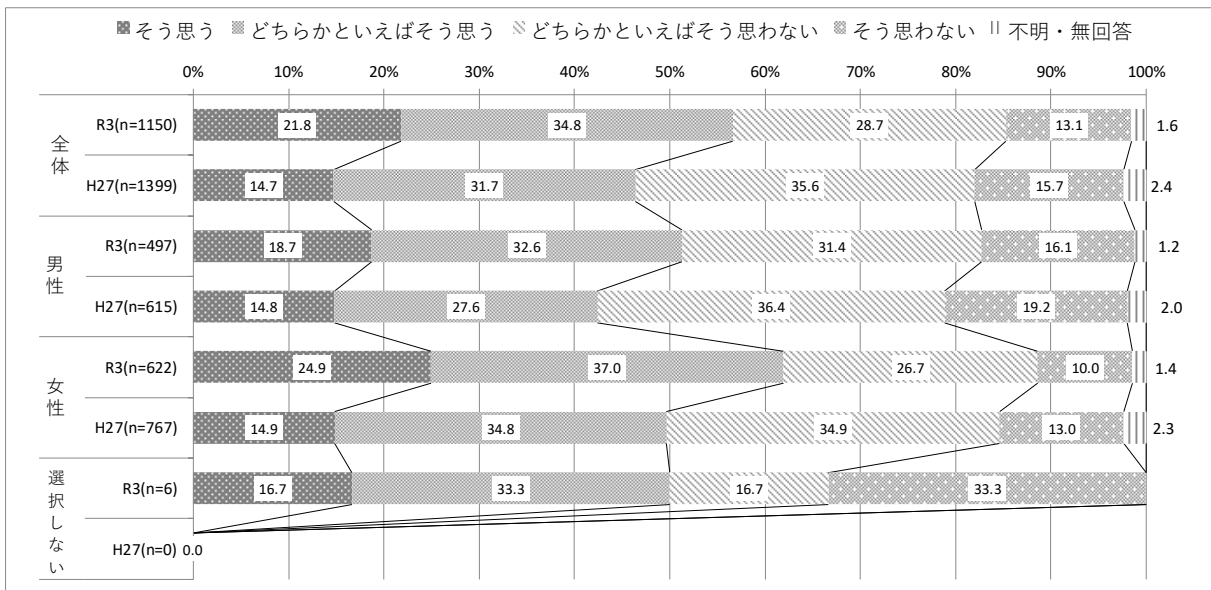
			問2 (3) 結婚しても必ずしも子どもを持たなくてもよい					合計
			そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	不明・無回答	
性別	男性	今回調査	31.6%	25.6%	27.6%	14.5%	0.8%	100.0%
		H27年調査	19.5%	21.8%	34.3%	22.8%	1.6%	100.0%
	女性	今回調査	45.2%	23.2%	20.3%	10.1%	1.3%	100.0%
		H27年調査	27.8%	28.3%	27.6%	13.4%	2.9%	100.0%
	選択しない	今回調査	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
		H27年調査	-	-	-	-	-	-

(4) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

全体では、「そう思う (小計)」56.6%に対して、「そう思わない (小計)」が41.8%となり、14.8pt増加した。

性別でみると、「そう思う (小計)」割合は、男性が51.3%、女性が61.9%であり、女性の方が10.6pt上回っている。経年比較でみると、男性は8.9pt、女性は12.2pt増加している。選択しないと回答した方は、「そう思う (小計)」「そう思わない (小計)」ともに50.0%となった。

図表 1-8 家庭生活・結婚に対する考え方
(4) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



図表 1-9 家庭生活・結婚に対する考え方
(4) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい—性別

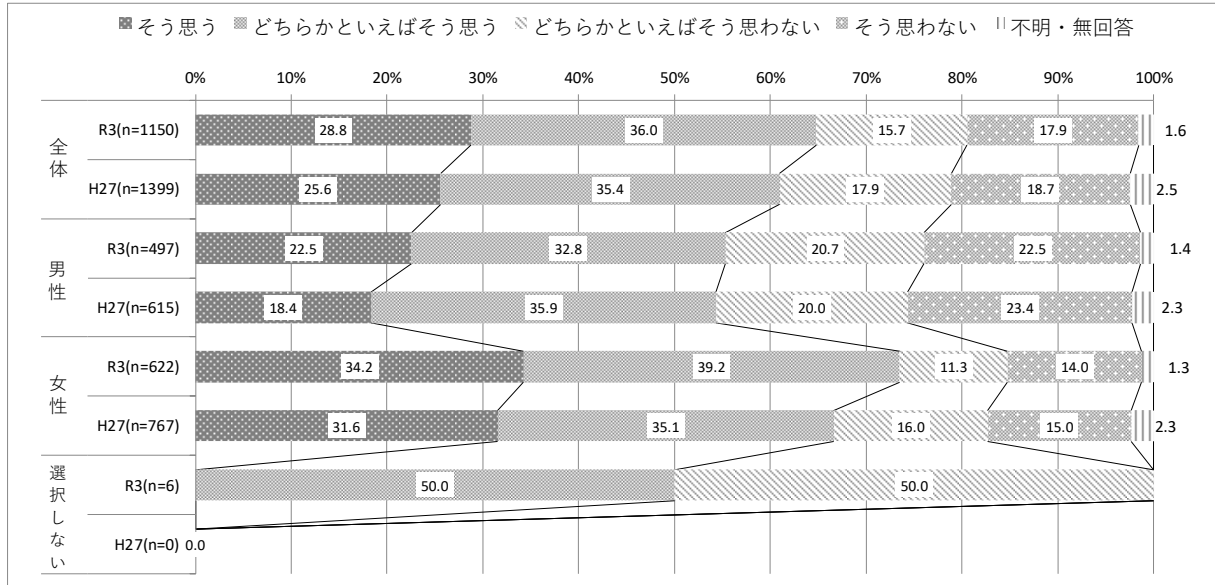
			問2 (4) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい					合計
			そう思う	どちらかとい えばそう思 う	どちらかとい えばそう思 わない	そう思 わない	不明・無 回答	
性別	男性	今回調査	18.7%	32.6%	31.4%	16.1%	1.2%	100.0%
		H27年調査	14.8%	27.6%	36.4%	19.2%	2.0%	100.0%
	女性	今回調査	24.9%	37.0%	26.7%	10.0%	1.4%	100.0%
		H27年調査	14.9%	34.8%	34.9%	13.0%	2.3%	100.0%
	選択しない	今回調査	16.7%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	100.0%
		H27年調査	-	-	-	-	-	-

(5) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である

全体では、「そう思う（小計）」が 64.8%、「そう思わない（小計）」が 33.6%となり、「そう思う（小計）」が 31.2pt 多い結果となった。平成 27 年調査に比べると 3.8pt 増加した。

性別でみると、「そう思う（小計）」割合は、女性が 73.4%で男性の 55.3%より 18.1pt 高くなった。経年比較でみると、「そう思う（小計）」割合は、男性は 1.0pt、女性は 6.7pt 増加している。選択しないと回答した方は、「そう思う（小計）」「そう思わない（小計）」ともに 50.0%となった。

図表 1-10 家庭生活・結婚に対する考え方（5）今の社会では離婚すると女性の方が不利である



図表 1-11 家庭生活・結婚に対する考え方

(5) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である－性別

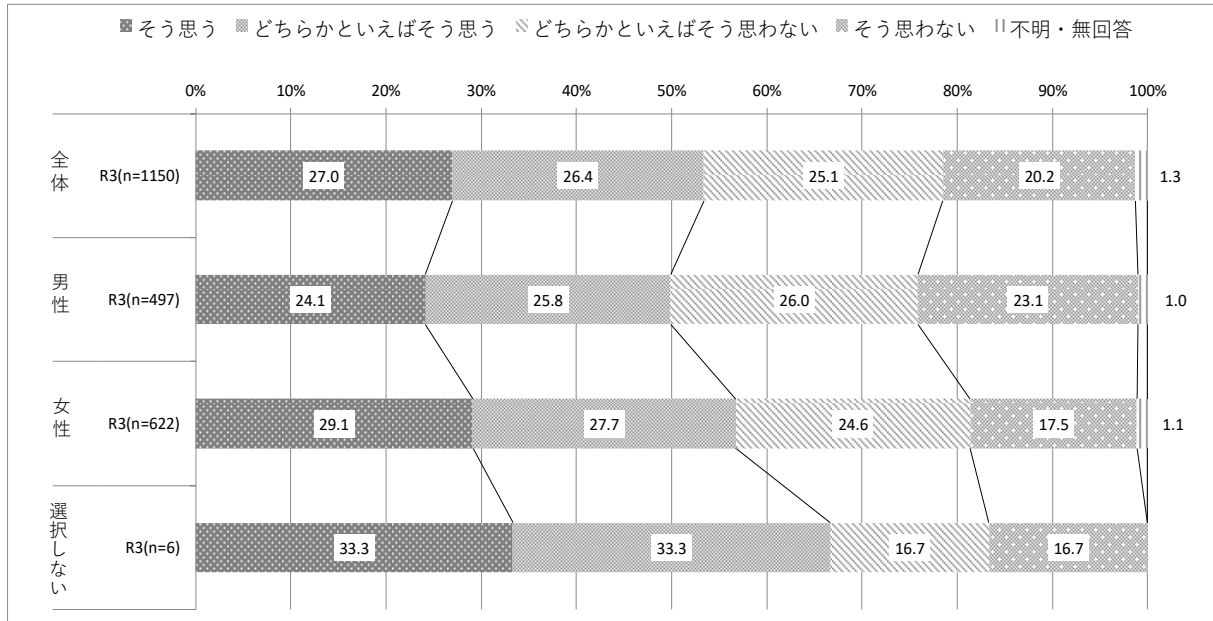
			問 2 (5) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である					合計
			そう思う	どちらかとい えばそう思 う	え ばそう思 わ ない	そう思 わ ない	不明・無 回 答	
性別	男性	今回調査	22.5%	32.8%	20.7%	22.5%	1.4%	100.0%
		H27年調査	18.4%	35.9%	20.0%	23.4%	2.3%	100.0%
	女性	今回調査	34.2%	39.2%	11.3%	14.0%	1.3%	100.0%
		H27年調査	31.6%	35.1%	16.0%	15.0%	2.3%	100.0%
選択しない	今回調査	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	

(6) 選択的夫婦別姓制度に賛成である

今回調査から追加した新規選択肢のため、平成 27 年調査との比較はない。全体では、「そう思う（小計）」が 53.4%で、「そう思わない（小計）」45.3%より 8.1pt 高い割合となっている。

性別でみると、「そう思う（小計）」割合は、女性が 56.8%で男性の 49.9%より 6.9pt 高い。

図表 1-12 家庭生活・結婚に対する考え方（6）選択的夫婦別姓制度に賛成である



図表 1-13 家庭生活・結婚に対する考え方（6）選択的夫婦別姓制度に賛成である

			問 2（6）選択的夫婦別姓制度に賛成である					合計
			そう思う	どちらかとい えばそう思う	えはそう思わ ない	そう思わない	不明・無回答	
性別	男性	今回調査	24.1%	25.8%	26.0%	23.1%	1.0%	100.0%
		H27年調査	-	-	-	-	-	-
	女性	今回調査	29.1%	27.7%	24.6%	17.5%	1.1%	100.0%
		H27年調査	-	-	-	-	-	-
選択しない	今回調査	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	

2 男女の地位の平等（問3）

男女の地位の平等について、「家庭では」、「職場では」、「学校や教育の場では」、「政治や経済の場では」、「社会通念やしきたり・慣習では」、「法律や制度では」、「自治会など地域活動の場では」、「社会全体では」のうち、それぞれ自分の考えに最も近いものをたずねた。

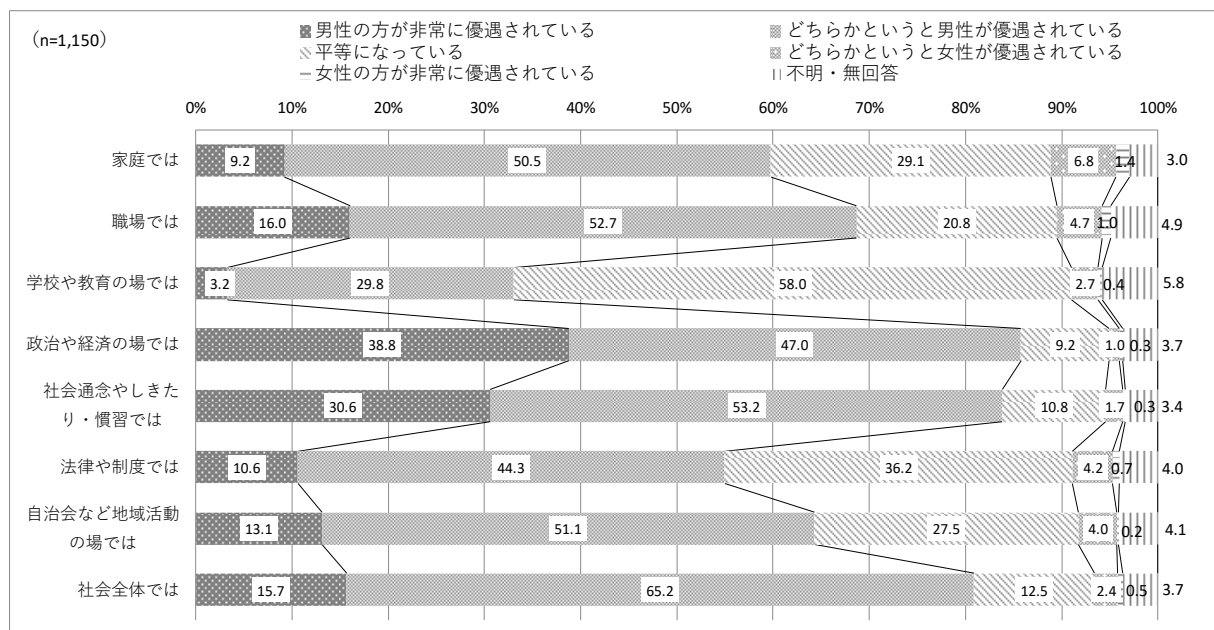
「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかというとな性が優遇されている」の割合の合計を「男性が優遇（小計）」とし、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかというとな性が優遇されている」の割合の合計を「女性が優遇（小計）」とする。そのうえで、「男性が優遇（小計）」「女性が優遇（小計）」「平等になっている」の3つとして比較する。

すべての分野において「男性が優遇（小計）」の割合が高くなっているが、中でも「政治や経済の場では」は85.8%と最も高い。次いで、「社会通念やしきたり・慣習では」83.8%、「社会全体では」80.9%、「職場では」68.7%、「自治会など地域活動の場では」64.2%、「家庭では」59.7%、「法律や制度では」54.9%、「学校や教育の場では」33.0%の順となっている。

「女性が優遇（小計）」は全体的に低くなっているが、その中でも「家庭では」が8.2%と最も高く、反対に「政治や経済の場では」が1.3%と最も低い。

また、「平等になっている」の割合は、「学校や教育の場では」が58.0%で最も高くなっている。

図表 2-1 男女の地位の平等について

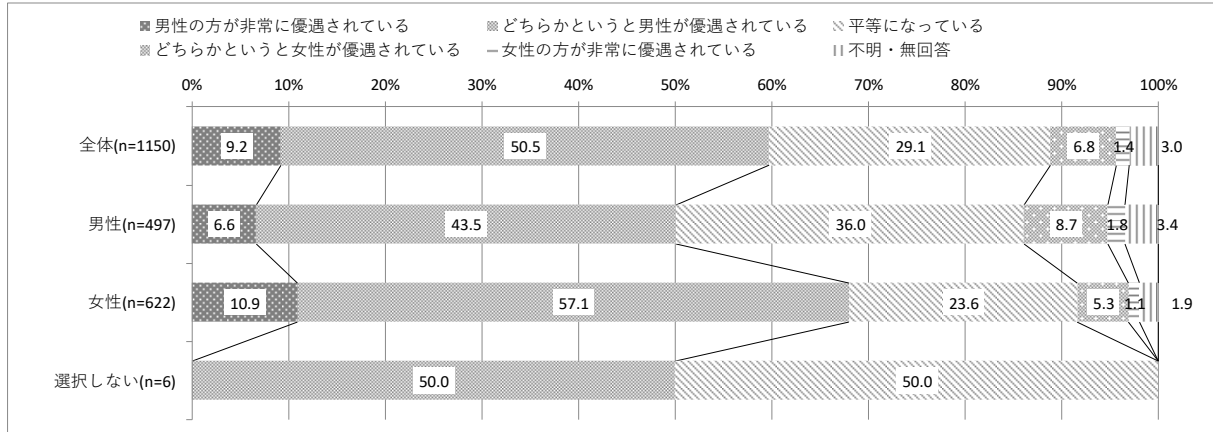


(1) 家庭では

全体では、「男性が優遇（小計）」が 59.7%で、「女性が優遇（小計）」の 8.2%より 51.5pt 高い割合となっている。「平等になっている」は 29.1%である。

性別で見ると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が 68.0%で男性の 50.1%より 17.9pt 高い。「平等になっている」割合は、男性が 36.0%で女性の 23.6%より 12.4pt 高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」と「平等になっている」で各 50.0%となった。

図表 2-2 男女の地位の平等について（1）家庭では



図表 2-3 男女の地位の平等について（1）家庭では—性別

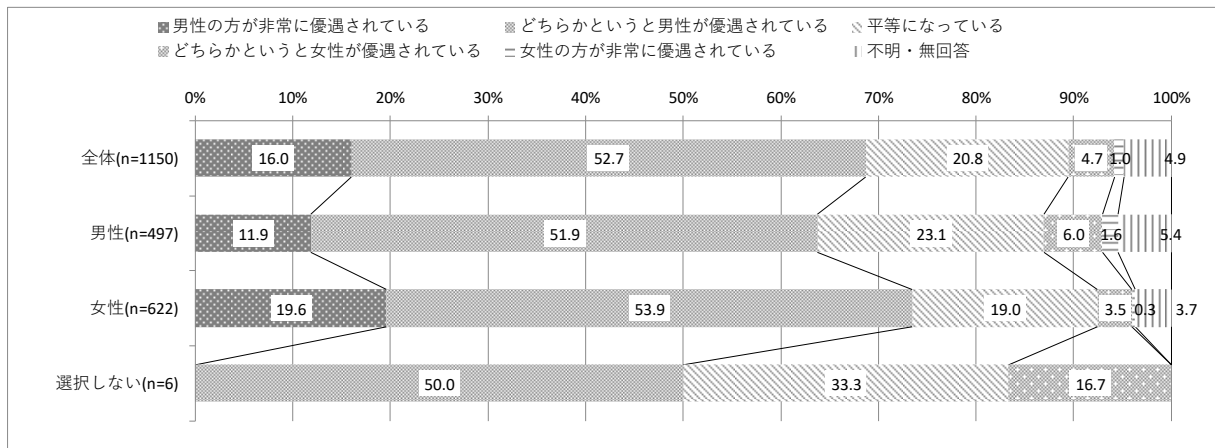
			問3 (1) 家庭では					合計	
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかという男性が優遇されている	平等になっている	どちらかという女性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている		不明・無回答
性別	男性	今回調査	6.6%	43.5%	36.0%	8.7%	1.8%	3.4%	100.0%
		H27年調査	2.9%	44.1%	39.0%	9.9%	2.4%	1.6%	100.0%
女性	今回調査	10.9%	57.1%	23.6%	5.3%	1.1%	1.9%	100.0%	
	H27年調査	12.6%	56.5%	21.6%	6.1%	0.8%	2.3%	100.0%	
選択しない	今回調査	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-	

(2) 職場では

全体では、「男性が優遇（小計）」が68.7%で、「女性が優遇（小計）」の5.7%より63.0pt高い割合となっている。「平等になっている」は20.8%である。

性別で見ると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が73.5%で男性の63.8%より9.7pt高い。「平等になっている」割合は、男性が23.1%で女性の19.0%より4.1pt高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」50.0%、「平等になっている」33.3%、「女性が優遇（小計）」16.7%であった。

図表 2-4 男女の地位の平等について（2）職場では



図表 2-5 男女の地位の平等について（2）職場では—性別

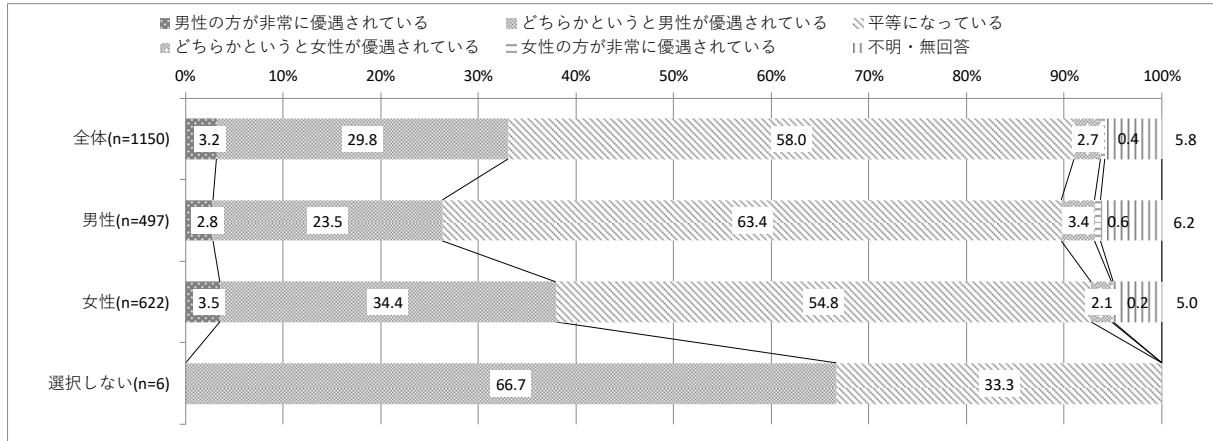
		問3 (2) 職場では						合計
性別		男性の方が非常に優遇されている	どちらかという男性が優遇されている	平等になっている	どちらかという女性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	不明・無回答	
男性	今回調査	11.9%	51.9%	23.1%	6.0%	1.6%	5.4%	100.0%
	H27年調査	11.1%	54.8%	22.4%	7.0%	2.1%	2.6%	100.0%
女性	今回調査	19.6%	53.9%	19.0%	3.5%	0.3%	3.7%	100.0%
	H27年調査	22.2%	54.5%	14.3%	4.8%	0.5%	3.7%	100.0%
選択しない	今回調査	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-

（３）学校や教育の場では

全体では、「男性が優遇（小計）」が 33.0%で、「女性が優遇（小計）」の 3.1%より 29.9pt 高い割合となっている。「平等になっている」は 58.0%である。

性別で見ると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が 37.9%で男性の 26.3%より 11.6pt 高い。「平等になっている」割合は、男性が 63.4%で女性の 54.8%より 8.6pt 高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」66.7%、「平等になっている」33.3%であった。

図表 2-6 男女の地位の平等について（３）学校や教育の場では



図表 2-7 男女の地位の平等について（３）学校や教育の場では—性別

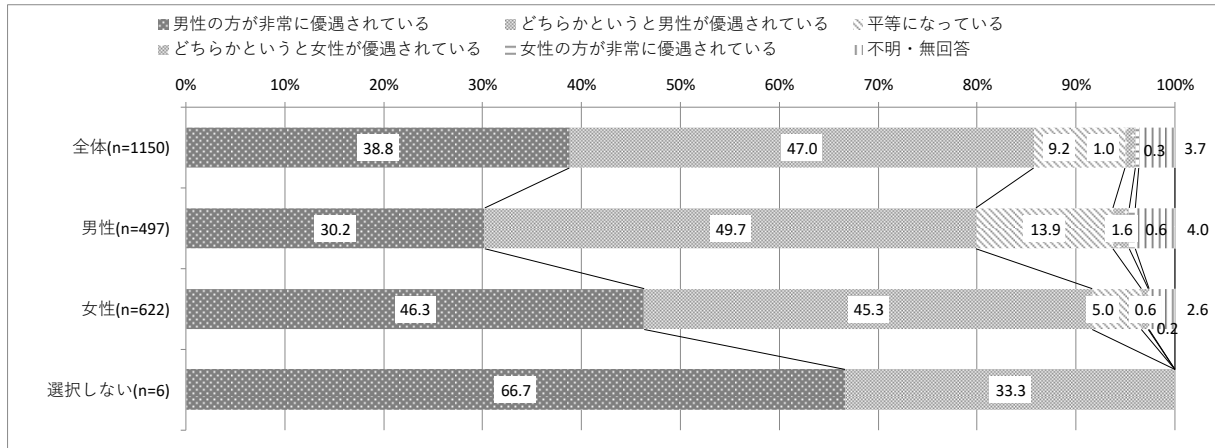
		問 3 （３）学校や教育の場では						合計	
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかというと男性が優遇されている	平等になっている	どちらかというと女性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	不明・無回答		
性別	男性	今回調査	2.8%	23.5%	63.4%	3.4%	0.6%	6.2%	100.0%
		H27年調査	1.1%	18.4%	71.1%	4.6%	0.8%	4.1%	100.0%
女性	今回調査	3.5%	34.4%	54.8%	2.1%	0.2%	5.0%	100.0%	
	H27年調査	3.0%	24.1%	65.7%	2.9%	0.1%	4.2%	100.0%	
選択しない	今回調査	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-	

(4) 政治や経済の場では

全体では、「男性が優遇（小計）」が85.8%で、「女性が優遇（小計）」の1.3%より84.5pt高い割合となっている。「平等になっている」は9.2%である。

性別で見ると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が91.6%で男性の79.9%より11.7pt高い。「平等になっている」割合は、男性が13.9%で女性の5.0%より8.9pt高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」100.0%となった。

図表 2-8 男女の地位の平等について（4）政治や経済の場では



図表 2-9 男女の地位の平等について（4）政治や経済の場では一性別

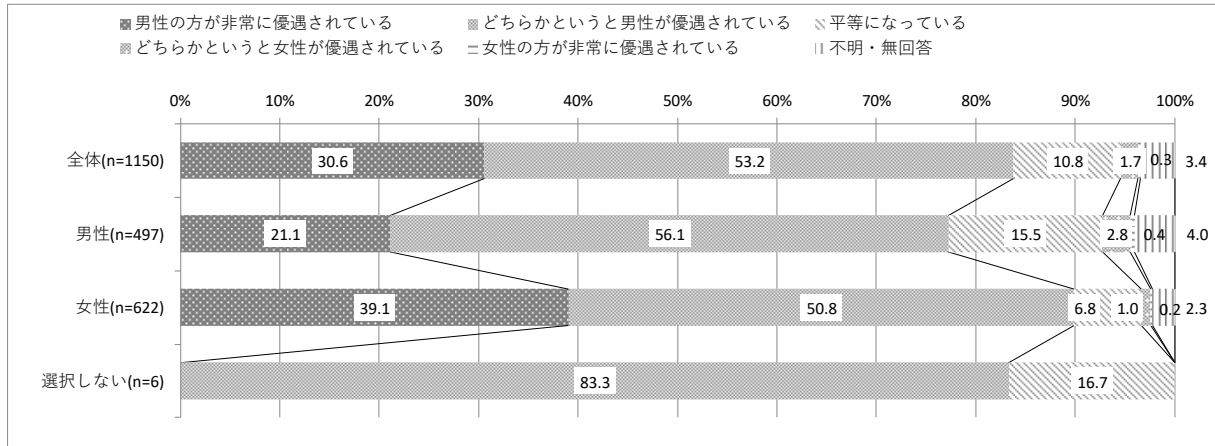
		問3 (4) 政治や経済の場では						合計
性別		男性の方が非常に優遇されている	どちらかという男性が優遇されている	平等になっている	どちらかという女性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	不明・無回答	
男性	今回調査	30.2%	49.7%	13.9%	1.6%	0.6%	4.0%	100.0%
	H27年調査	21.5%	57.9%	14.8%	2.1%	1.0%	2.8%	100.0%
女性	今回調査	46.3%	45.3%	5.0%	0.6%	0.2%	2.6%	100.0%
	H27年調査	34.2%	52.9%	8.0%	1.4%	0.1%	3.4%	100.0%
選択しない	今回調査	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-

(5) 社会通念やしきたり・慣習では

全体では、「男性が優遇（小計）」が 83.8%で、「女性が優遇（小計）」の 2.0%より 81.8pt 高い割合となっている。「平等になっている」は 10.8%である。

性別で見ると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が 89.9%で男性の 77.2%より 12.7pt 高い。「平等になっている」割合は、男性が 15.5%で女性の 6.8%より 8.7pt 高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」 83.3%、「平等になっている」 16.7%であった。

図表 2-10 男女の地位の平等について（5）社会通念やしきたり・慣習では



図表 2-11 男女の地位の平等について（5）社会通念やしきたり・慣習では—性別

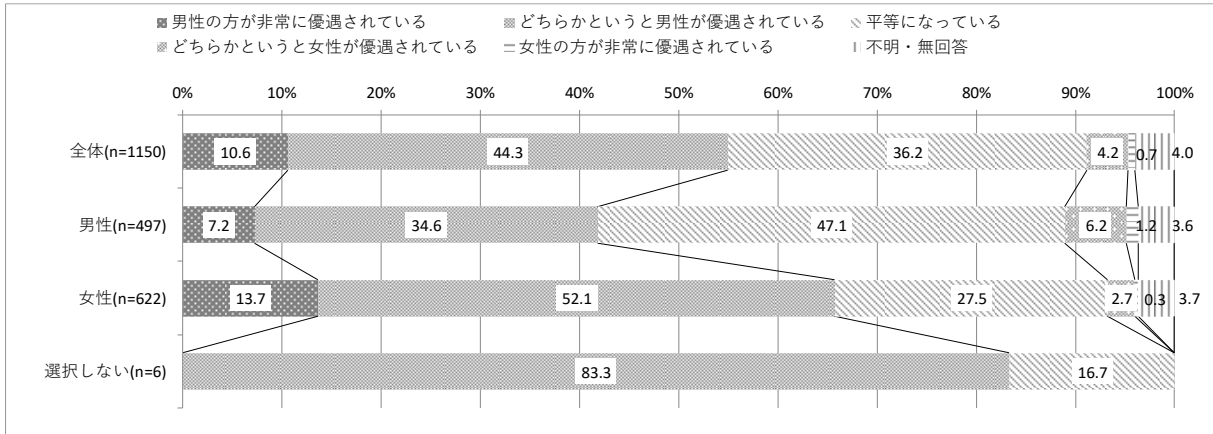
			問3 (5) 社会通念やしきたり・慣習では					合計	
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかというとも性が優遇されている	平等になっている	どちらかというとも性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている		不明・無回答
性別	男性	今回調査	21.1%	56.1%	15.5%	2.8%	0.4%	4.0%	100.0%
		H27年調査	16.1%	59.7%	16.4%	3.9%	1.3%	2.6%	100.0%
女性	今回調査	39.1%	50.8%	6.8%	1.0%	0.2%	2.3%	100.0%	
	H27年調査	28.8%	56.3%	9.6%	2.1%	0.3%	2.9%	100.0%	
選択しない	今回調査	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-	

(6) 法律や制度では

全体では、「男性が優遇（小計）」が54.9%で、「女性が優遇（小計）」の4.9%より50pt高い割合となっている。「平等になっている」は36.2%である。

性別で見ると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が65.8%で男性の41.8%より24pt高い。「平等になっている」割合は、男性が47.1%で女性の27.5%より19.6pt高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」83.3%、「平等になっている」16.7%であった。

図表 2-12 男女の地位の平等について（6）法律や制度では



図表 2-13 男女の地位の平等について（6）法律や制度では一性別

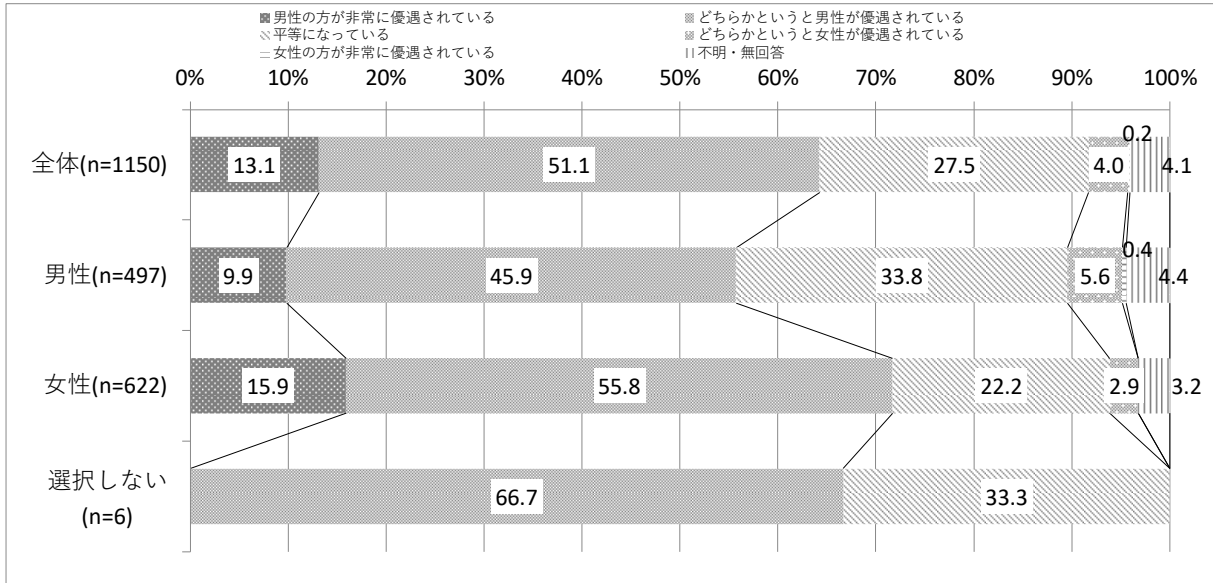
			問3 (6) 法律や制度では					合計	
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかという男性が優遇されている	平等になっている	どちらかという女性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている		不明・無回答
性別	男性	今回調査	7.2%	34.6%	47.1%	6.2%	1.2%	3.6%	100.0%
		H27年調査	3.7%	29.4%	54.3%	8.1%	2.1%	2.3%	100.0%
女性	今回調査	13.7%	52.1%	27.5%	2.7%	0.3%	3.7%	100.0%	
	H27年調査	10.0%	46.3%	33.9%	5.7%	0.3%	3.8%	100.0%	
選択しない	今回調査	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-	

(7) 自治会など地域活動の場では

全体では、「男性が優遇（小計）」が64.2%で、「女性が優遇（小計）」の4.2%より60pt高い割合となっている。「平等になっている」は27.5%である。

性別でみると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が71.7%で男性の55.8%より15.9pt高い。「平等になっている」割合は、男性が33.8%で女性の22.2%より11.6pt高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」66.7%、「平等になっている」33.3%であった。

図表 2-14 男女の地位の平等について（7）自治会など地域活動の場では



図表 2-15 男女の地位の平等について（7）自治会など地域活動の場では一性別

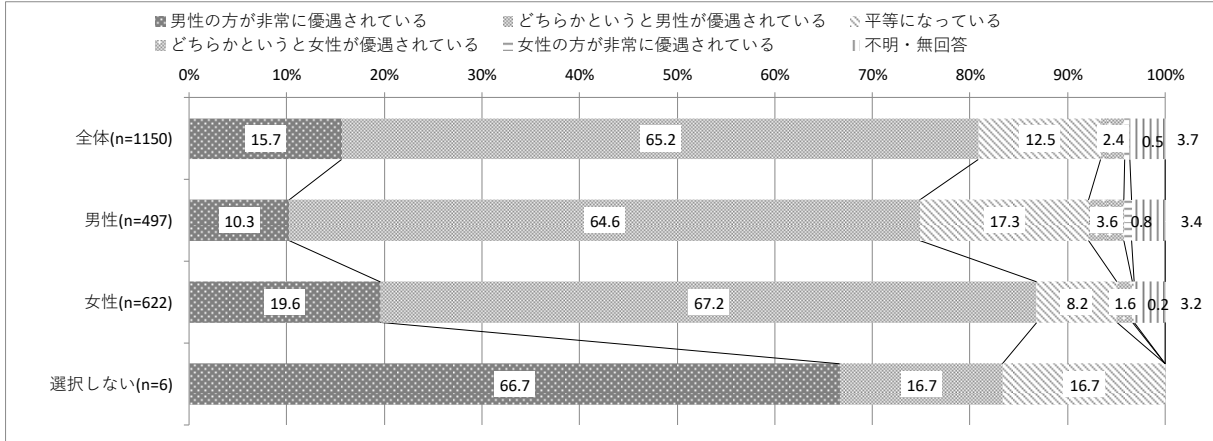
		問3 (7) 自治会など地域活動の場では						合計
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかというとも性が優遇されている	平等になっている	どちらかというとも性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	不明・無回答	
性別	男性 今回調査	9.9%	45.9%	33.8%	5.6%	0.4%	4.4%	100.0%
	H27年調査	5.7%	40.7%	42.1%	8.5%	1.0%	2.1%	100.0%
女性	今回調査	15.9%	55.8%	22.2%	2.9%	0.0%	3.2%	100.0%
	H27年調査	11.5%	49.2%	30.1%	5.5%	0.4%	3.4%	100.0%
選択し	今回調査	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-

(8) 社会全体では

全体では、「男性が優遇（小計）」が80.9%で、「女性が優遇（小計）」の2.9%より78pt高い割合となっている。「平等になっている」は12.5%である。

性別で見ると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が86.8%で男性の74.9%より11.9pt高い。「平等になっている」割合は、男性が17.3%で女性の8.2%より9.1pt高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」83.4%、「平等になっている」16.7%であった。

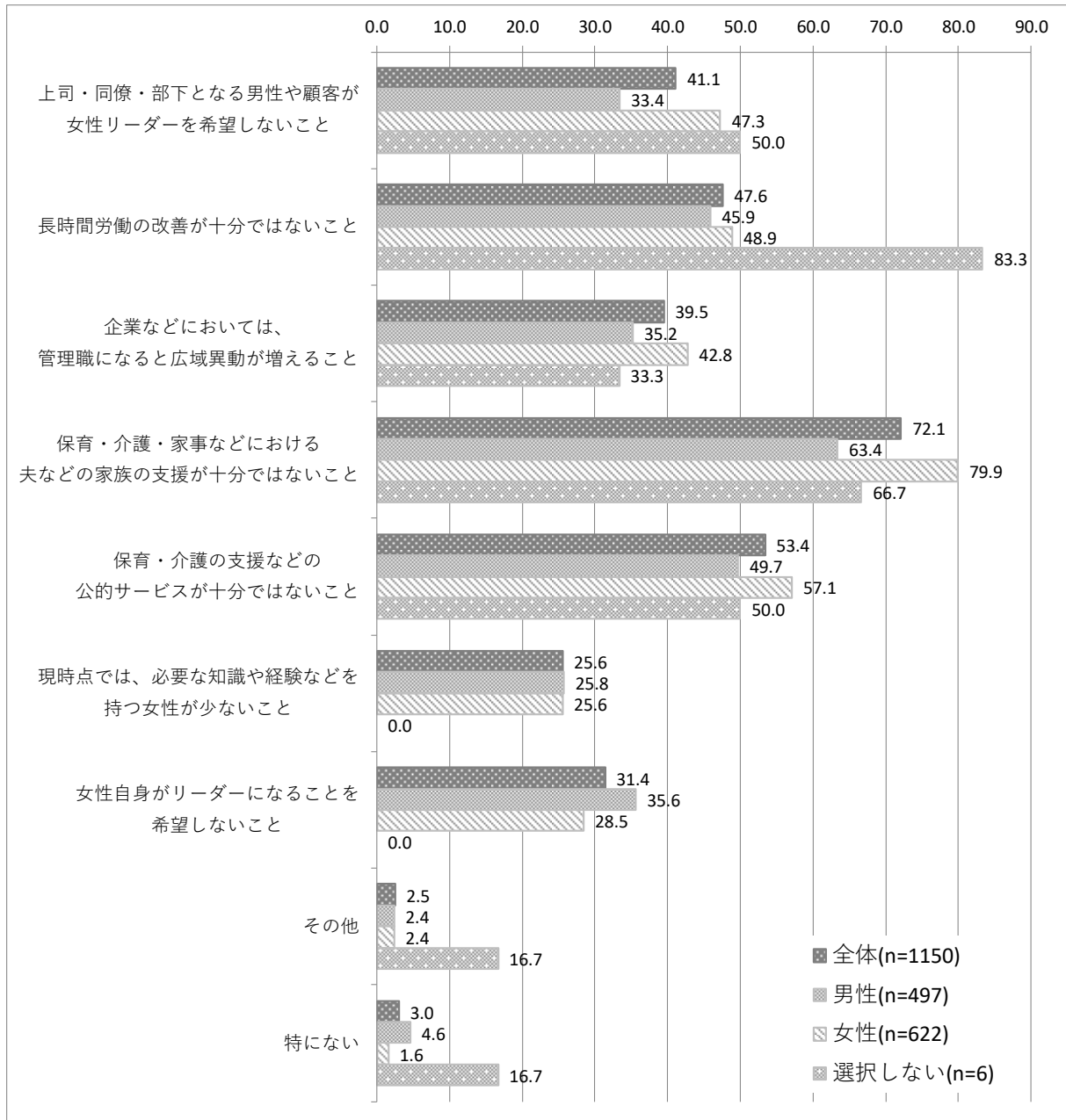
図表 2-16 男女の地位の平等について（8）社会全体では



図表 2-17 男女の地位の平等について（8）社会全体では—性別

		問3 (8) 社会全体では						合計
性別		男性の方が非常に優遇されている	どちらかというと男性が優遇されている	平等になっている	どちらかというと女性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	不明・無回答	
男性	今回調査	10.3%	64.6%	17.3%	3.6%	0.8%	3.4%	100.0%
	H27年調査	4.6%	65.0%	20.0%	7.2%	1.0%	2.3%	100.0%
女性	今回調査	19.6%	67.2%	8.2%	1.6%	0.2%	3.2%	100.0%
	H27年調査	15.9%	67.3%	11.9%	2.1%	0.3%	2.6%	100.0%
選択しない	今回調査	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-

図表 3-1 各分野で女性のリーダーを増やす時に障害になるもの



図表 3-2 各分野で女性のリーダーを増やす時に障害になるもの－性別

		問4 政策・方針決定過程への女性の参画（複数回答）										合計
性別		上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	その他	特になし		
男性	度数	166	228	175	315	247	128	177	12	23	497	
	年齢の%	33.4%	45.9%	35.2%	63.4%	49.7%	25.8%	35.6%	2.4%	4.6%		
女性	度数	294	304	266	497	355	159	177	15	10	622	
	年齢の%	47.3%	48.9%	42.8%	79.9%	57.1%	25.6%	28.5%	2.4%	1.6%		
選択しない	度数	3	5	2	4	3	0	0	1	1	6	
	年齢の%	50.0%	83.3%	33.3%	66.7%	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%		

4 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の現実（問9）

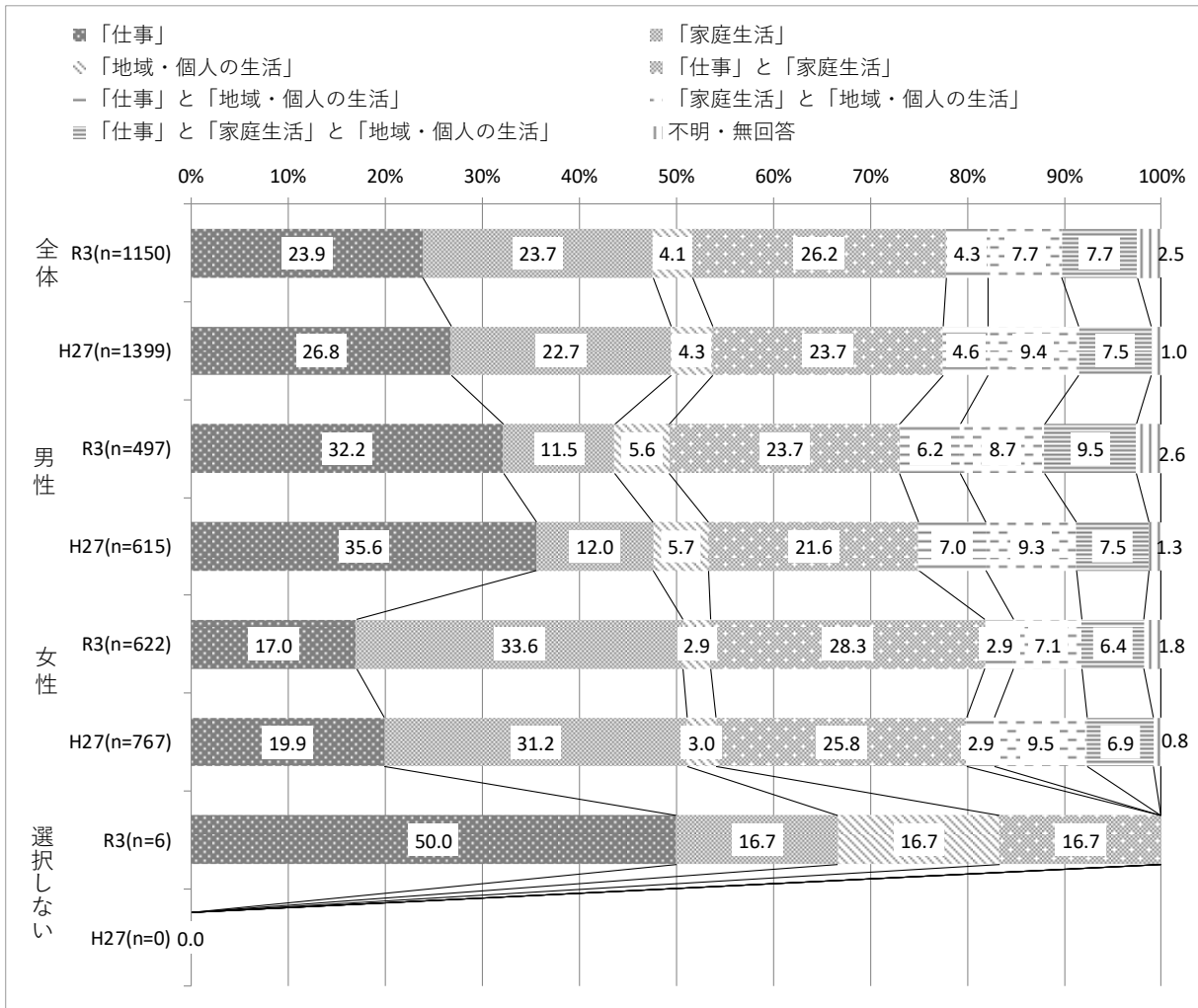
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、次の中から最も現実に近いものをたずねた。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

全体では、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が26.2%で最も高く、次いで『仕事』を優先している」23.9%、『家庭生活』を優先している」23.7%の順である。この3つを合計すると全体の73.8%を占めている。経年比較で見ると、平成27年調査では、『仕事』を優先している」が26.8%、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が23.7%、『家庭生活』を優先している」が22.7%で合計は73.2%となり、仕事を優先から仕事と家庭どちらも優先の考え方にシフトしていることがわかる。

全体で割合の最も高かった『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」割合は、女性が28.3%で男性の23.7%より4.6pt高い。また、『仕事』を優先している」割合は、男性が32.2%で女性の17.0%より15.2pt高かった。『家庭生活』を優先している」割合は、女性が33.6%で男性の11.5%より22.1pt高い。性別を選択しないと回答した方は、半数の50.0%が『仕事』を優先している」と回答し、次いで『家庭生活』を優先している」、「『地域・個人の生活』を優先している」、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」で各16.7%となった。

図表 4-1 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の現実



図表 4-2 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の現実-性別

			問6 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（現実）							合計	
			「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	不明・無回答		
性別	男性	今回調査	32.2%	11.5%	5.6%	23.7%	6.2%	8.7%	9.5%	2.6%	100.0%
		H27年調査	35.6%	12.0%	5.7%	21.6%	7.0%	9.3%	7.5%	1.3%	100.0%
	女性	今回調査	17.0%	33.6%	2.9%	28.3%	2.9%	7.1%	6.4%	1.8%	100.0%
		H27年調査	19.9%	31.2%	3.0%	25.8%	2.9%	9.5%	6.9%	0.8%	100.0%
	選択しない	今回調査	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
		H27年調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-

5 DVの相談窓口（問12）

配偶者や恋人などから暴力を受けた場合の相談窓口として、次の中から知っているところを複数回答でたずねた。

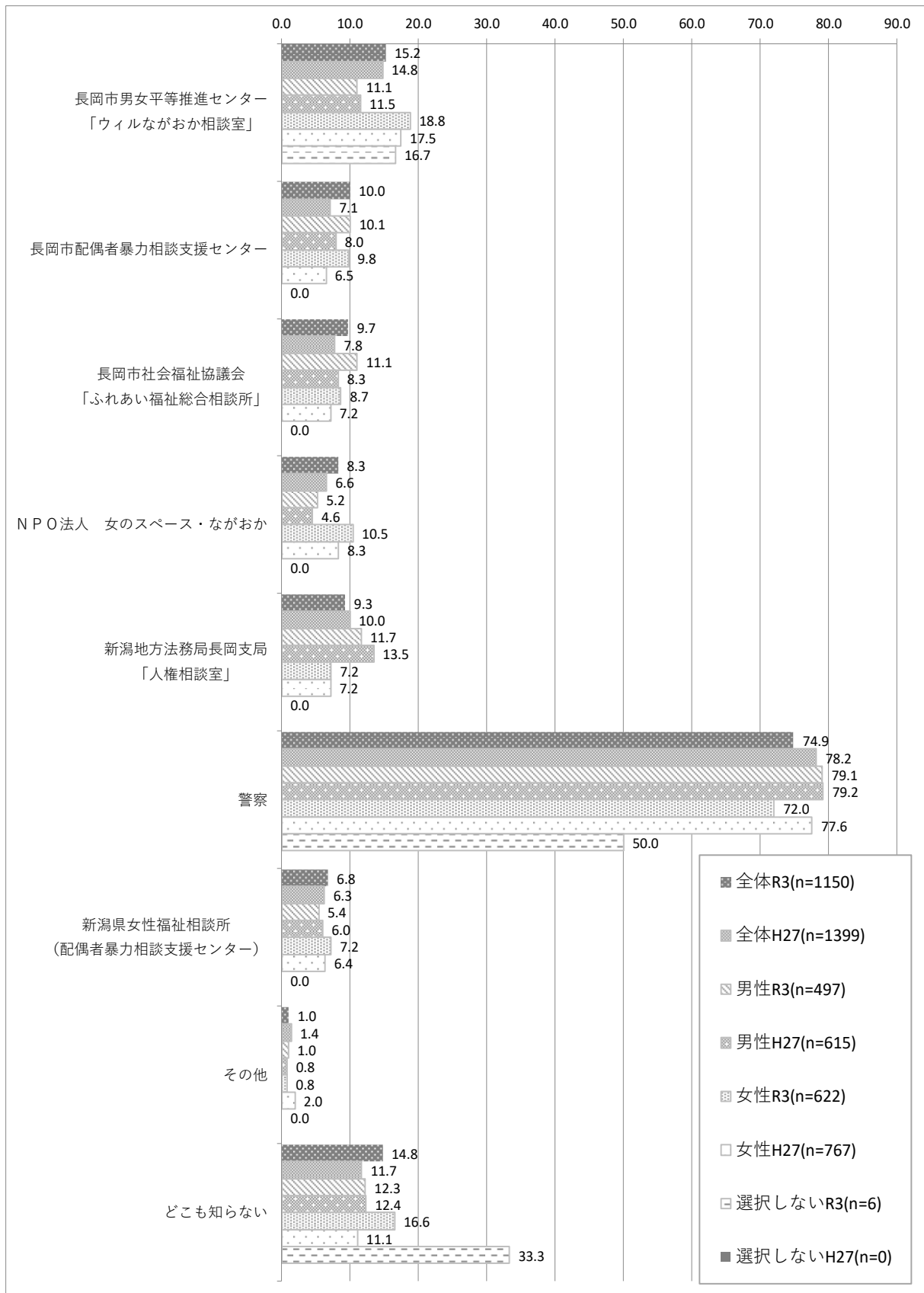
長岡市男女平等推進センター「ウィルながおか相談室」
長岡市配偶者暴力相談支援センター
長岡市社会福祉協議会「ふれあい福祉総合相談所」
NPO法人 女のスペース・ながおか
新潟地方法務局長岡支局「人権相談室」
警察
新潟県女性福祉相談所（配偶者暴力相談支援センター）
その他
どこも知らない

全体で最も多かった回答は平成27年調査（78.2%）同様に、74.9%で「警察」となっている。次いで、「長岡市男女平等推進センター『ウィルながおか相談室』」が15.2%（平成27年調査14.8%）、
「長岡市配偶者暴力相談支援センター」が10.0%となった。

性別で見ると、「警察」は男性が79.1%で女性の72.0%より7.1pt高い。また「長岡市男女平等推進センター『ウィルながおか相談室』」は女性が18.8%で男性の11.1%より7.7pt高い。その他の相談窓口に関しては、男性と女性で大きな差はなかった。

「警察」以外で多かった回答としては、男性は「どこも知らない」で12.3%、女性は「長岡市男女平等推進センター『ウィルながおか相談室』」で18.8%となっている。

図表 5-1 DV の相談窓口として知っているところ(複数回答)



図表 5-2 DVの相談窓口：どこも知らない-性別

			問 9 DVの相談窓口：認知		合計
			いずれかを 知っている	どこも知らな い	
性別	男性	今回調査	91.6%	8.4%	100.0%
		H27年調査	87.6%	12.4%	100.0%
	女性	今回調査	89.1%	10.9%	100.0%
		H27年調査	88.9%	11.1%	100.0%
	選択しない	今回調査	66.7%	33.3%	100.0%
		H27年調査	-	-	-

以上